

JF 組合学校ニュース 26号

全国漁業協同組合学校 2018.10.15

－2019年度(第80期)入学生募集中－

創立77年目を迎えた全国唯一の漁協系統団体の職員・幹部の養成学校

高校・大学等を卒業し(見込者含)、JFグループへの就職を目指す新卒者と、漁協等の系統団体の現職者を対象に9月3日から第80期の入学希望者の願書の受付を開始しています。

2014年度より開始した、漁協等の系統団体の現職者を対象に、学費の一部が減額される学生募集を2017年度からは「入学金・授業料全額免除」に変更をいたしました。2019年度も継続して実施いたします。

修業年限は1年間で、漁村の中核となる人材育成を目的とし、協同組合の理念に基づき、協同組合論等の基礎7科目、漁協経営論等の実務11科目の広範な知識を、弁護士・大学教授・専門家・JFグループ現職者等の講師から学びます。

校舎での講義の他に、水産庁・農林中金・JFグループ等に出向く研修と、20日間以上の夏期漁協実習も実施しています。

また、資格取得においては、日商簿記・パソコン・信用事業・危険物取扱者・フォークリフト等が可能です。

漁協運動の担い手として必要な、自主・自立・互助の精神を体得させる人間教育と寮制の下に、学生の連帯意識と共同精神を養う新しいリーダーを目指す教育を行っております組合学校への入学のご検討をよろしくお願いいたします。募集要項は本校ホームページに掲載中です。

願書受付期間・選考日・合格発表日

	願書受付期間	選考日	合格発表日
第1回	2018年9月3日(月) ～10月22日(月)	2018年11月9日(金)	2018年11月26日(月)
第2回	2018年11月26日(月) ～2019年1月15日(火)	2019年1月25日(金)	2019年2月8日(金)

* 学生募集要項の送付につきましては、年一回、6月下旬頃に全国の漁協・漁連・信漁連・関係団体に郵送にてお届けしております。ご不明な点等がございましたらご連絡をお願いいたします。

－2018年度(第79期)学生について－

充実した特別講義等を12人の学生が体験

7月3日(火) JF全漁連トップセミナー

代表理事専務長屋信博氏より「水産日本の復活に向けて、今、何をなすべきかー漁業の成長産業化と漁村の活性化を目指してー」のご講義をいただき、その後、JF共水連、漁済連、JF全漁連のご担当者からの概要説明と事務所見学を行いました。最後にJF全漁連総合管理部人事担当次長から「就職活動の心構え」の講義を受けました。ご指導下さいました団体に感謝申し上げます。

7月11日(水)～ 漁協実習の実施(20日間以上)

実務教育の一環として夏期休暇を利用して全国8カ所の漁協・漁連で実習を行い、荷受・販売・加工業務・事務などの実体験をしました。

実習を経験して、学生全員が漁協の業務内容や漁協運動の重要性について理解を深めることができました。学生を受入れて頂き長期にわたりご指導下さいました団体に感謝申し上げます。

9月18日(火) (株)全国漁協オンラインセンター見学研修

JF マリンバンクの金融システムの中核機能として、全国の漁協のオンライン取引のデータを管理する為、厳重なセキュリティ及び地震停電対策がなされている現状を見学後、センターの概要説明と漁協の信用業務の中での役割についての講義を受けました。お忙しい中研修を受け入れて頂きご指導下さいましたことに感謝申し上げます。

9月20日(木)～21日(金) 漁協等実地研修

去る9月20日～21日、二日間に亘り、大洗町漁協及び銚子市漁協、また、(株)ぎよれん鹿島食品センター及び(株)ソウマ流通加工センター(いずれも水産加工場)の計4箇所を訪問し、視察しました。

大洗町漁協について、生産者市場において沿岸で漁獲されたシラスの水揚げやセリ(ヒラメ、マダイ、イセエビ等)を視察し、その後、漁協の会議室において、女性部の活動や“地域・行政・組合員”参加型の漁協運営について様々な取組みについて説明していただきました。{シラス直売から始まり“かあちゃんの店”設立までの苦労話し、漁業者の手取りアップにつながる買取の仕組み、研究会活動(例：おまつり参画、婚活主催、冷凍生シラス生産等)}

学生達は、要所で組合員を集めて話し合いで物事を取り決めていること（民主的運営）、内外ともに垣根がなく地域に溶け込んでいること、漁協が組合員とお互い補完し良好な関係が構築されていることについて、学びました。

また、水揚げ数量7年連続日本一を誇る銚子市漁協においては、第1卸売市場で近海まぐろ船から水揚げされたメバチ・メカジキのセリの様子、また第2卸売市場においては、タイミング良くさんま棒受網船の水揚げ中の様子を視察しました。その後、新設の製氷冷凍施設を見学し、生産・保管能力の大きさ、また、氷出荷の種類等きめ細やかな対応についても、学びました。

水産加工場の視察について、初日は、茨城県神栖市の(株)ぎよれん鹿島食品センターで概要説明・施設見学を行い、北海道漁連と連携した取組みや本センターの位置づけ、徹底した衛生管理等が印象に残ったとの感想がありました。また、第2日目は、主に干物加工を中心に事業展開している(株)ソウマの加工センターを視察しました。手間暇かかる作業（100%自動化できないこと）、外国人労働者の活躍、干物作業工程が丸1日でほぼ終わること等について、学んだところです。

本研修会を実施するにあたり、企画段階よりご相談にのっていただいた漁協系統関係役員の方々、また、現地で直接ご講義・ご指導いただいた関係の方々に対し、ご協力をいただき、感謝申し上げます。大変貴重な体験をさせていただき、ありがとうございます。

資格取得状況

入学して2カ月で6月の日商簿記3級試験に4人が合格、7月のパソコン(MOS・Word)に10人が合格しました。今後の予定は、11月に日商簿記(3級)、危険物乙種第4類、12月にパソコン(MOS・Excel)・ビジネス能力ジョブパス3級、1月に小型船舶(希望者)、2月に信用事業、日商簿記(2・3級)、フォークリフト(希望者)で、全員が合格を目指しています。

就職状況

昨年を大幅に上回る求人をいただきました。お陰様で10月12日現在、4人(復職者2人除)の就職が内定をいたしました。求人をお寄せいただきました漁連・県漁協、漁協等、採用をしていただきました漁連・県漁協、漁協等に深謝申し上げます。また、今年度は、昨年度に引続き学生数が12人と少ないためにご期待に添えない状況となりましたことに心からお詫びを申し上げます。来年度は1人でも多く入学生を迎え、浜に送り出すことが出来るように募集活動に奔走しております。

生活状況

第79期は、先輩方から受け継いだ学校内の施設や寮室等を大切に使用しています。また、学生同士で話し合い、バーベキュー、ボウリング大会等に積極的に取り組んでいます。これから行われる予定の野球大会、フットサル大会を楽しみに練習に励んでいます。

少し、シャイな学生が多い79期ですが、各自の目標が定まっていることから積極的に学習に取り組む、日々成長をしています。

－階層別研修について－

ご報告

監査士養成コース

7月23日(火)～26日(木)の3日間で会計学・監査論の2科目を対象に「独学が難しい会計学・監査論を専門の講師が解説 ～科目の理解を深め合格を目指す～」を専門講師の指導で実施しました。参加団体数8団体で12人のご参加をいただきました。本年度は、9月の水協組監査士試験合格に向けて、専門講師による重要ポイントについての徹底的な説明と実践で理解度を確実にする内容で研修を行いました。受講者の方々の試験合格に向けての熱心さが伝わってくる研修となりました。(開催場所：本校)

販売事業コース

8月27日(月)～28日(火)の2日間で「水産エコラベル認証制度の仕組みと可能性～漁業の持続可能性と販売力強化を求めて～」について、東京海洋大学教授 婁小波氏がコーディネーターを務めて実施しました。

講師陣は、(一社)マリン・エコラベル・ジャパン協議会会長 垣添直也氏、由比港漁業協同組合代表理事組合長 宮原 淳一氏、MSC 海洋管理協議会プログラムディレクター 石井 幸造氏、ASC 水産養殖管理協議会ジャパンジェネラルマネージャー 山本 光治氏、宮城県漁業協同組合志津川支所長 阿部富士夫氏、京都府漁業協同組合組織部部長 濱中 貴志氏、SCSA 理事 高知大学准教授 深田 陽久氏、JF 全漁連技術顧問 坂本 文男氏、東京大学大学院教授 八木 信行氏、ビューローベリタスジャパン(株)執行役員 岡崎 久喜氏、サステナビリティサービスマネージャー 佐久間 智恵子氏。本年度の視察先は、パルシステム連合会南大沢センターで行いました。参加団体数20団体、31人の多くの方にご参加をいただきました。(開催場所：東京都)

受講者募集中

《漁業経営指導員養成講座(専門講座)》

(参加申込締切日 11月20日 募集要項 HP 掲載中)

漁家経営の改善を図るため営漁指導を担当する専門家の養成・スキルアップをねらいとし、初日は個別漁家への経営指導を念頭に置き講演を行います。二日目は地域営漁指導の観点より漁協の事例報告として、浜の活力再生にかかる取組事例、組合員参加型の漁協運営の2つ事例紹介等の講義等を下記の日程で行います。

また、簿記初心者、基礎知識を確認したい方のための簿記基礎講座を開講いたします。受講者の受付を行っておりますので、ご参加のご検討をよろしくお願いいたします。

研修日：12月6日(木)～7日(金)

場 所：全国漁業協同組合学校(千葉県柏市)

費 用：宿泊者 57,000円、通学者 50,000円

簿記基礎講座：12月5日(水)をお申込みの場合は、別途、10,000円がかかります。

締切日：11月20日(火)

講 師：水産庁 増殖推進部研究指導課課長補佐(先端技術班担当) 鏑木 健志 氏

全国漁業協同組合連合会 浜再生推進部次長 北村 歳一郎 氏

小川漁業協同組合(静岡県) 総務課長 法月 宏樹 氏

小川漁業協同組合(静岡県) 経理課 主計係 丸山 詩乃 氏

野付漁業協同組合(北海道) 専務理事 山本 國男 氏

東京海洋大学 学術研究院海洋政策文化学部門准教授 工藤 貴史 氏

公認会計士 日本工業大学大学院技術経営研究科客員教授 岡村 健司 氏

石井税理士事務所所長 税理士・中小企業診断士 石井 計行 氏

宮城県水産業経営支援協議会 水産業経営相談室 特別相談員 藤島武雄 氏

塾生募集中

《JF 全漁連主催 浜の起業家養成塾》

(締切日 11月26日 募集要項 JF 全漁連 HP 掲載中)

JFグループとして、“人づくり”を重要課題に揚げ、全国段階において、将来の浜のリーダーとなるべき人材（若手漁師）の育成を図るため、「浜の起業家養成塾」を下記のとおり開講いたします。

これからの漁師に求められる3つの力（漁業力・経営力・地域力）を、業界のプロから学びます。お問合せ等はJF全漁連漁政部までお願いいたします。

開催期間：（漁業編）2019年1月7日(月)～16日(水)

（経営編）2019年1月28日(月)～2月6日(水)

上記いずれかだけでも受講可能です。

受講料：無料（ただし、滞在中の宿泊・食事は実費負担）

募集対象者：ヤル気のある若手漁師(原則45歳未満、所属漁協または漁連からの推薦が必要)

募集定員：若干名

開催場所：全国漁業協同組合学校（住所：千葉県柏市豊町1-4-5）

宿泊先：全国漁業協同組合学校（千葉県柏市豊町1-4-5学校内の寄宿寮）

問合せ先：JF全漁連 漁政部 担当者：木山次長、金田職員

電話：03-3294-9617 fax:03-3294-9658

－組合学校の動き－

高等学校「進路ガイダンス」に参加

北海道羽幌高等学校（7/4）、新潟県立海洋高等学校（9/3）

組合学校は、7月4日に羽幌高校体育館で行われた羽幌町商工会主催の「地域企業による職業ガイダンス」（羽幌高等学校生徒対象）に、また、9月3日に新潟県立海洋高等学校「1・2年進路ガイダンス」に参加しました。

羽幌高等学校においては、北るもい漁協と連携して取組み、漁協からは、沿革、各事業概要、地元の主要漁業、水揚げ魚種など漁協の特徴を説明。その後、組合学校が教育内容・学寮生活・就職先などについて説明を行ないました。

また、新潟県立海洋高等学校においては、組合学校より、“漁業協同組合とは”、“地元の漁業情勢”、“組合学校の紹介”といった流れで説明を行ないました。

なお、両校とも、高校体育館で行われ、ガイダンス手法は、参加団体（企業等）が体育館内にブースを設けた上、参加生徒が聞きたいブースへ集まり、説明を聞くといったスタイルで実施されました。

今回、説明を聞いた生徒達が、漁協や地域漁業に興味を抱き、組合学校を進路の一つに置き、漁協への就職希望者の増加につながることを期待したいと思います。

ホームページ

学校をもっと身近に感じてほしい、学校の活動内容をもっと知ってほしい等を目的に学校のホームページの改善をはじめています。既に系統団体のご理解・ご協力をいただき、アクセス数も徐々に増えてきております。今後もホームページを通じて学校の最新の情報を提供していきたいと考えておりますので宜しくお願いいたします。

学生募集・各種研修会については「組合学校で検索」で検索をお願いいたします。

－同窓会の動き－

組合学校第37期生同窓会

7月21日(土)組合学校にて、第37期生の卒業後初の同窓会が行われました。第37期生は昭和51年（1976年）4月15日に64名が入学。64名の内18名が現職者。出身地は、北海道から沖縄県までの25都道府県。卒業から41年の月日が流れ、残念ながら住所等が不明となり連絡が取れない同窓生が増える中、幹事のご尽力で17名が出席され、終始盛会のうちに終了をいたしました。

組合学校で同窓会をご希望の場合や同窓会にご意見・ご要望等がございましたら同窓会事務局（組合学校内）までご連絡を宜しくお願い申し上げます。また、同窓生の方でご住所のご変更等がございましたら学校までお知らせをいただけます様お願い申し上げます。

回								
覧								

*掲載させていただきました講師等の役職につきまして、各研修実施日現在としております。予め、ご了承のほど、よろしくお願い申し上げます。